

令和3年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の安全・安心な学校生活を支えるために感染予防を含めた環境整備と実践的教育を充実する。 2 児童生徒の学習に向かう意欲を大事にするとともに、新たに導入されるICT環境を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 3 挨拶と返事など礼儀正しさを定着させ、個に応じた自立活動の充実を図り、キャリア教育を推進する。 4 感染予防を配慮した地域との連携を模索し、学習内容の定着や実践に向けた体験的な学習を行う。 5 保護者や関係機関とのつながりを強化し、教育的支援力の向上や地域におけるセンター的役割の拡充を図る。 6 職員が心身ともに健康に働くことのできる職場環境を作る。 		
担当	重点目標 (関連項目番号)	具体的方策	留意事項
小学部	<p>保護者との連携を強化し、児童の学習の定着を図る。 (2、4、5)</p>	<p>学年通信や懇談会の在り方の見直しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主任者会で学年通信や懇談会の在り方について話し合う。 ・学校の取り組みや児童の様子をより分かりやすく保護者へ伝えるように工夫する。 ・学校の取り組み等を分かりやすく工夫して伝えることができたかなどについてアンケートを実施する。
中学部	<p>総合的な学習の時間におけるグループ活動の充実を図る。(2、5)</p>	<p>地域との連携を図りながら、中学部全体で地域交流に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの実態に応じた活動内容を計画し、全てのグループで地域交流を実施できるようにする。 ・直接交流と、オンラインやビデオレター・作品交換等による間接交流とを効果的に組み合わせながら地域交流を実施する。
高等部	<p>主体的に挨拶や返事をする意識を高め、人とかかわりながら社会の一員として生きていく力を身に付ける。 (1、3)</p>	<p>生徒心得を基本とした生活の意識を高め、生徒一人一人の実態や場面に合った挨拶や返事の仕方を確認し、職員が共通理解して指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた挨拶や返事の仕方を学年会、部会等で確認し、同じような指導ができるようにする。 ・部集会などで生徒心得についての話を定期的に行い、生徒の意識を高める。 ・共通理解の下、高等部全体で指導できたかなどのアンケートを実施する。
総務部	<p>児童生徒の安全・安心な学校生活を支えるために学習環境を整備する。 (1)</p>	<p>各教室に配付されている備品の過不足や破損状況を調査し、適切に配付することで、学習環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室備品であるテープカッター、穴あけパンチ、鉛筆削り、黒板消し、黒板消しクリーナーの過不足や破損状況の調査を長期休業を利用して行う。 ・調査結果をもとに適切に配付する。 ・学習に支障が出ないように、計画的な購入を行う。
教務部	<p>児童生徒の実態に合わせた指導・支援ができるような学習指導案の様式を作成する。 (2)</p>	<p>学習指導案の様式を見直し、学習指導要領の観点を取り入れて作成できるように新たな様式を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導案の様式を作成し、学習指導案を3種類にする。 ・いつ、どの様式を作成していくかは研修部と連携して検討する。 ・知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度の3観点で指導・支援に当たれるように記入例を作成する。
保健体育部	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、学校の安全安心が確保できるような環境を整える。(1、4)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組に関する調査を通じて、感染症拡大防止対策の定着を図るようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止に向けた取組が習慣化できるように、年間3回グループウェアでアンケートを実施する。 ・アンケート結果は毎回報告し、感染症拡大防止対策の再確認を促すとともに、必要に応じて校医の助言を受け校内対応の見直しや改善を行うようにする。
自立活動	<p>事例紹介を通して、自立活動の指導の進め方について理解を深める。 (2、5)</p>	<p>スマイルサポートで聞き取りをした児童生徒について、自立活動の視点からどのような指導ができるのかを校務部会で検討する。検討した内容をスマイルサポートだよりで具体的に示し、情報提供をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援部と連携し、スマイルサポートのアンケートを実施する。 ・対象となる児童生徒の様子について聞き取りをし、実態や中心的な課題、具体的な指導方法など、校務部会で話し合う。 ・実践後の様子についても聞き取り、スマイルサポートだよりを通して情報発信をする。

指導部	いじめのない学校を目指し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。全教職員が児童生徒にいじめ防止の指導・支援ができる。(1、5)	いじめ未然防止に向けて部集会での啓発、発達段階に応じた「虹のつばさ」を活用を促す。また、早期発見に向けて「こころとからだの健康アンケート」を実施する。教育相談係を中心に、いじめに対する早期対応に当たる。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止に向けて部集会等で児童生徒が考えやすい内容を提示する。 友達との正しい関わり方を学ぶために、発達段階に応じた「虹のつばさ」を活用する。「虹のつばさ」の見直しを図り、内容を精選して2か月に1回の発行とする。 「こころとからだの健康アンケート」を実施し家庭や施設との連携を図る。教育相談係を全体に周知し、相談しやすい体制を整える。
	保護者、教職員の防災についての意識を高め、災害時の連絡体制を整える。(1、6)	<ul style="list-style-type: none"> 一斉下校に伴うメール配信訓練を年3回実施する。 教職員、保護者との連携を図り、電話・メールの送受信100%を目指す。 災害時、職員の行動をわかりやすいイラストにし、行動の浸透を図る。 激甚災害時マニュアルの確認、非常時に向けた準備を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉下校に伴うメール配信訓練では、返信がない家庭を即座に特定し、担任を通じて返信を促すようにする。 現職研修を通して災害時、職員の行動をわかりやすく説明する。 各分掌での役割を明確にし、それぞれ準備を進めてもらうようにする。
進路指導	障害福祉に関する情報に接することができる環境を整える。(3、5)	[進路指導コーナー]の情報を更新し、福祉事業所や障害福祉制度について情報提供をする。また、保護者や児童生徒向けの進路説明の充実を図り、内容や時期について検討し、説明を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報更新を定期的に行い、グループウェア等を利用してアナウンスをする。 小学部、中学部、高等部のそれぞれの段階において何を伝えるか検討する。 進路決定までの流れや福祉サービスの種類などについて理解を促す内容とする。
研修部	過去の初任者研修や中堅教諭等資質向上研修資料の保管方法を工夫し、教員資質の向上を図る。(2)	初任者研修や中堅教諭等資質向上研修の資料を整理し、紙ファイルとPDFにして保管をする。	<ul style="list-style-type: none"> 過去の研修資料を整理、精選する。 整理した資料は、必要なものをファイルサーバーに保管する。 初任者研修、中堅教諭等資質向上研修(前期、後期)の指導案や研究課題等を閲覧しやすいように紙ファイルで研修部の棚に保管する。
情報図書部	授業でのICT機器や視聴覚機器の有効的な活用を促進する。(2)	児童生徒用iPadや大型テレビの活用方法、実際の活用例を示す。視聴覚コンテンツのリストを作成し、活用しやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のiPadの取り扱いについて、基本的な規則を示す。 各教室の大型テレビ接続部品の使用方法等を明確にする。 iPadや大型テレビの授業での活用例を示す。 ICT機器や視聴覚機器を用いた授業を実践しやすい環境が整えられたか、実践状況から判断する。
支援部	校内、校外における教育的支援の向上を図る。(5)	SST教材を活用してもらえよう、整理、改善、広報をする。校内での成果を発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談で紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいSSTゲームを支援部で検討、試行を行い類型別に分けるなどして教材ファイルを作成する。 自立活動部とも連携し、おたよりやGWで定期的に紹介して校内で活用できるようにする。 夏期校内研修や外部依頼の研修会、巡回相談、発達障害児等支援・指導検討会等でも持ち出し資料として活用する。
教頭	働きがいがあり、働きやすい職場環境をつくる。(6)	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会等を活用して、互いの信頼関係が深まる活動に取り組む。 各学年、各部、各分掌で効率を考えた働き方ができるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限のある中、教職員の信頼関係が深まるような活動を提案する。 新しく入った職員が仕事をやりやすいと感じるように情報の可視化・共有化・効率化を意識するように呼びかける。 健康で働くことができるように勤務時間を意識する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な学校生活の充実 ICT環境の積極的な活用 	